

202312KeMCo

[View Report](#)[Campaign Preview](#) [HTML Source](#) [Plain-Text Email](#) [Details](#)[View this email in your browser](#)

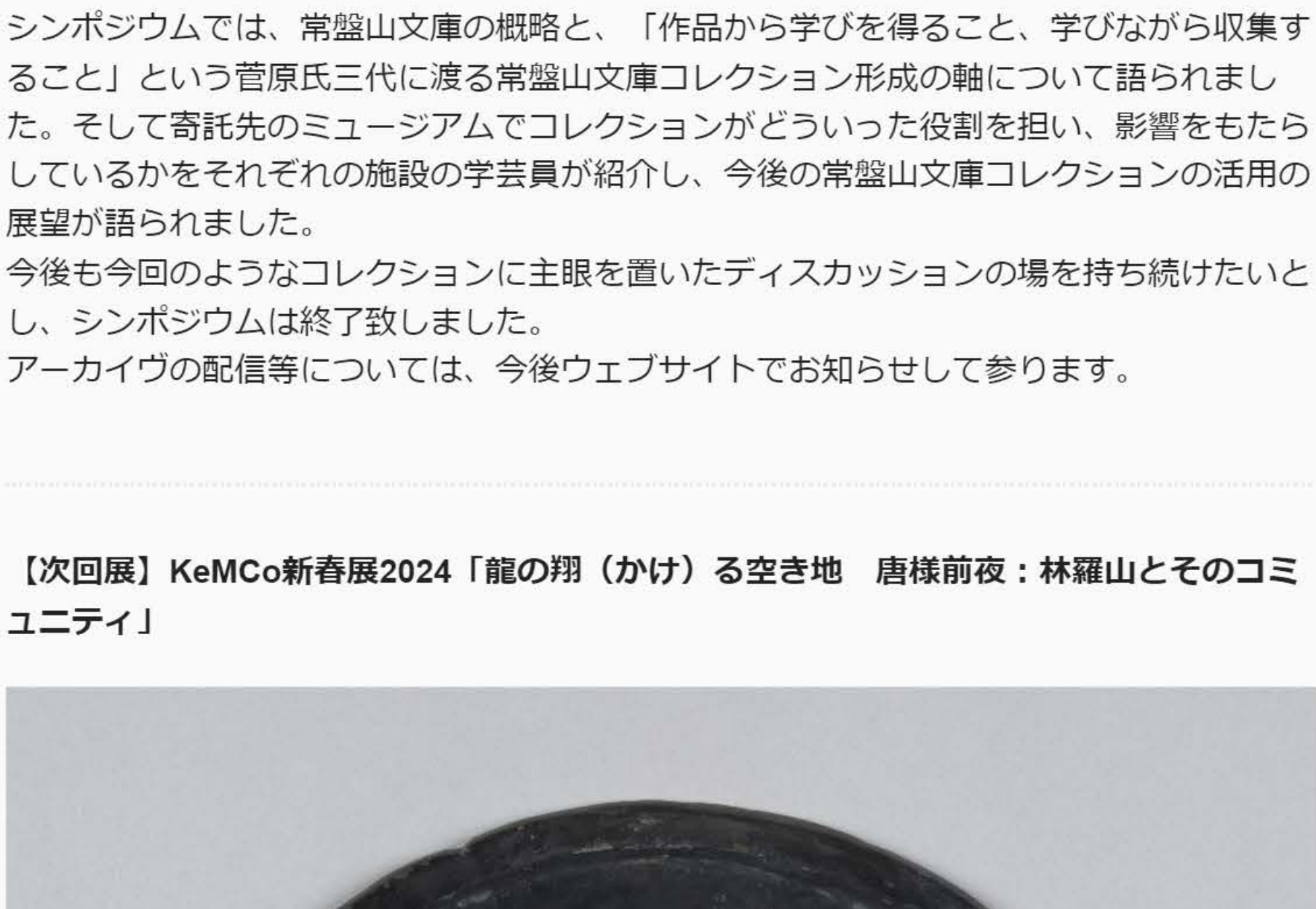
12月になりました。今年も残すところあと一か月です。
KeMCoは毎年恒例のお正月展覧会「新春展」の準備をしつつ、実験企画「KeMCo Staircase Lab.『社会学と歩こう』」の開催も控えて、年末まで大忙しです。詳しくは今回のメールマガジンでご紹介いたします。
KeMCoは2023年も、最後まで駆け抜けます。

KeMCoの近況

「常盤山文庫×慶應義塾 臥遊（がゆう）—時空をかける禅のまなざし」が閉幕しました

12月1日（金）をもって、「常盤山文庫×慶應義塾 臥遊（がゆう）—時空をかける禅のまなざし」が閉幕しました。
展示室内には作品タイトルルしが掲出せず、一週目は自由な心で作品を鑑賞し、二週目は解説冊子を手にも再び作品をご覧くださいという試みを行った本展は、Eテレ「日曜美術館」内「アートシーン」でも取り上げられました。
ご来場いただいた皆様には厚くお礼を申し上げます。

シンポジウム「常盤山文庫コレクションをめぐる、美術館の裏側を語る」を開催しました



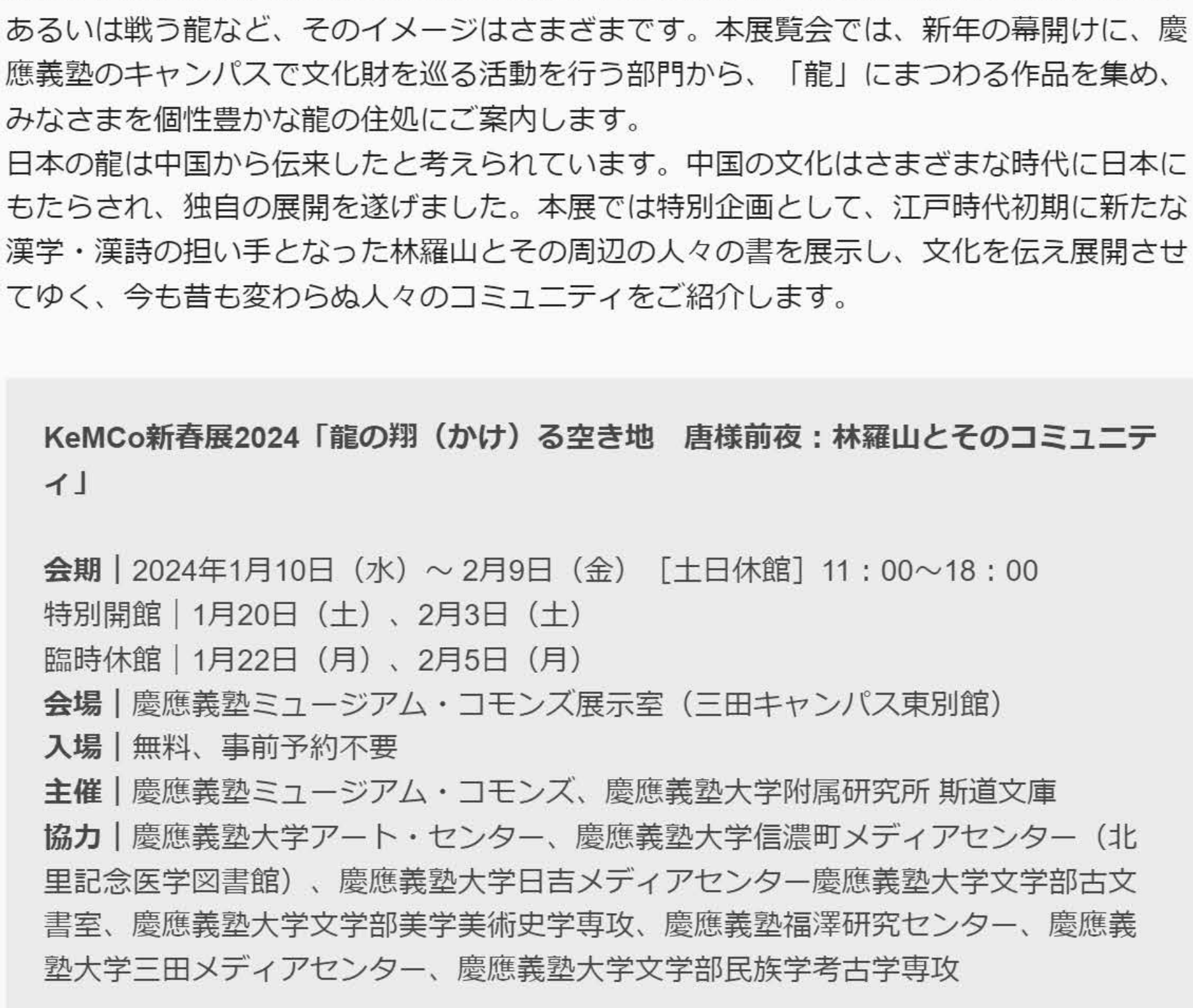
2023年11月14日（火）に、展覧会「常盤山文庫×慶應義塾 臥遊（がゆう）—時空をかける禅のまなざし」関連イベントとして、常盤山文庫主任学芸員 佐藤サアラ氏、九州国立博物館主任研究員 畑崎紀氏、東京国立博物館主任研究員 三笠景子氏、慶應義塾ミュージアム・コモンズ専任講師 松谷英美氏を登壇者に迎えたシンポジウム「常盤山文庫コレクションがつながく、モノと人のネットワーク」を三田キャンパス東館6F G-Labにて開催しました。

シンポジウムでは、常盤山文庫の概略と、「作品から学びを得ること、学びながら収集すること」という菅原氏三代に渡る常盤山文庫コレクション形成の軸について語られました。そして寄託先のミュージアムでコレクションがどういった役割を担い、影響をもちたしているかをそれぞれの施設の学芸員が紹介し、今後の常盤山文庫コレクションの活用への展望が語られました。

今後も今回のようなコレクションに主眼を置いたディスカッションの場を持ち続けたいとし、シンポジウムは終了致しました。

アーカイブの配信等については、今後ウェブサイトでお知らせして参ります。

【次回展】KeMCo新春展2024「龍の翔（かけ）る空地 唐様前夜：林羅山とそのコミュニティ」



「盤龍六花鏡」唐時代（8世紀）、慶應義塾（センチュリー赤尾コレクション）

新たな年の挨拶にはどんな言葉やイメージを添えるでしょうか。お祝いの言葉、近況報告、親しい人の写真・・・「干支」も馴染み深いものです。
2024年の干支は「辰」（龍）。干支のうちで唯一の想像上の生き物です。龍は洋の東西を問わずいろいろな文物に表れてきました。自然を操る龍、秘境に潜む龍、守護する龍、あるいは戦う龍など、そのイメージはさまざまです。本展覧会では、新年の幕開けに、慶應義塾のキャンパスで文化財を巡る活動を行う部門から、「龍」にまつわる作品を集め、みなさまを個性豊かな龍の住処にご案内します。
日本の龍は中国から伝来したと考えられています。中国の文化はさまざまな時代に日本にもたらされ、独自の展開を遂げました。本展では特別企画として、江戸時代初期に新たな漢学・漢詩の担い手となった林羅山とその周辺の人々の書を展示し、文化を伝え展開させてゆく、今も昔も変わらぬ人々のコミュニティをご紹介します。

KeMCo新春展2024「龍の翔（かけ）る空地 唐様前夜：林羅山とそのコミュニティ」

会期 | 2024年1月10日（水）～2月9日（金）【土日休館】11:00～18:00
特別開館 | 1月20日（土）、2月3日（土）
臨時休館 | 1月22日（月）、2月5日（月）
会場 | 慶應義塾ミュージアム・コモンズ展示室（三田キャンパス東別館）
入場 | 無料、事前予約不要

主催 | 慶應義塾ミュージアム・コモンズ、慶應義塾大学附属研究所 斯道文庫
協力 | 慶應義塾大学アート・センター、慶應義塾大学信濃町メディアセンター（北里記念医学図書館）、慶應義塾大学日吉メディアセンター 慶應義塾大学文学部古文書室、慶應義塾大学文学部美学美術史学専攻、慶應義塾福澤研究センター、慶應義塾大学三田メディアセンター、慶應義塾大学文学部民族考古学専攻

関連イベント

「唐様前夜：林羅山とそのコミュニティ」ギャラリートーク（要予約）
1月15日（月）14:00-15:00 堀川貴司（慶應義塾大学附属研究所 斯道文庫 教授）

※最新情報はウェブサイトをご確認ください。

KeMCo新春展2024「龍の翔（かけ）る空地」

【12月11日（月）～23日（土）】KeMCo Staircase Lab.「社会学と歩こう」（展示）



KeMCo Staircase Lab.は、慶應義塾の様々な教室とコラボレーションし、ミュージアムとの関わりが少い専門領域の学生や人々とミュージアムを、階段のように繋いでいくプロジェクトです。

第1回企画では、法学部政治学科の笠井賢紀研究会と共同した展示「社会学と歩こう」を開催します。

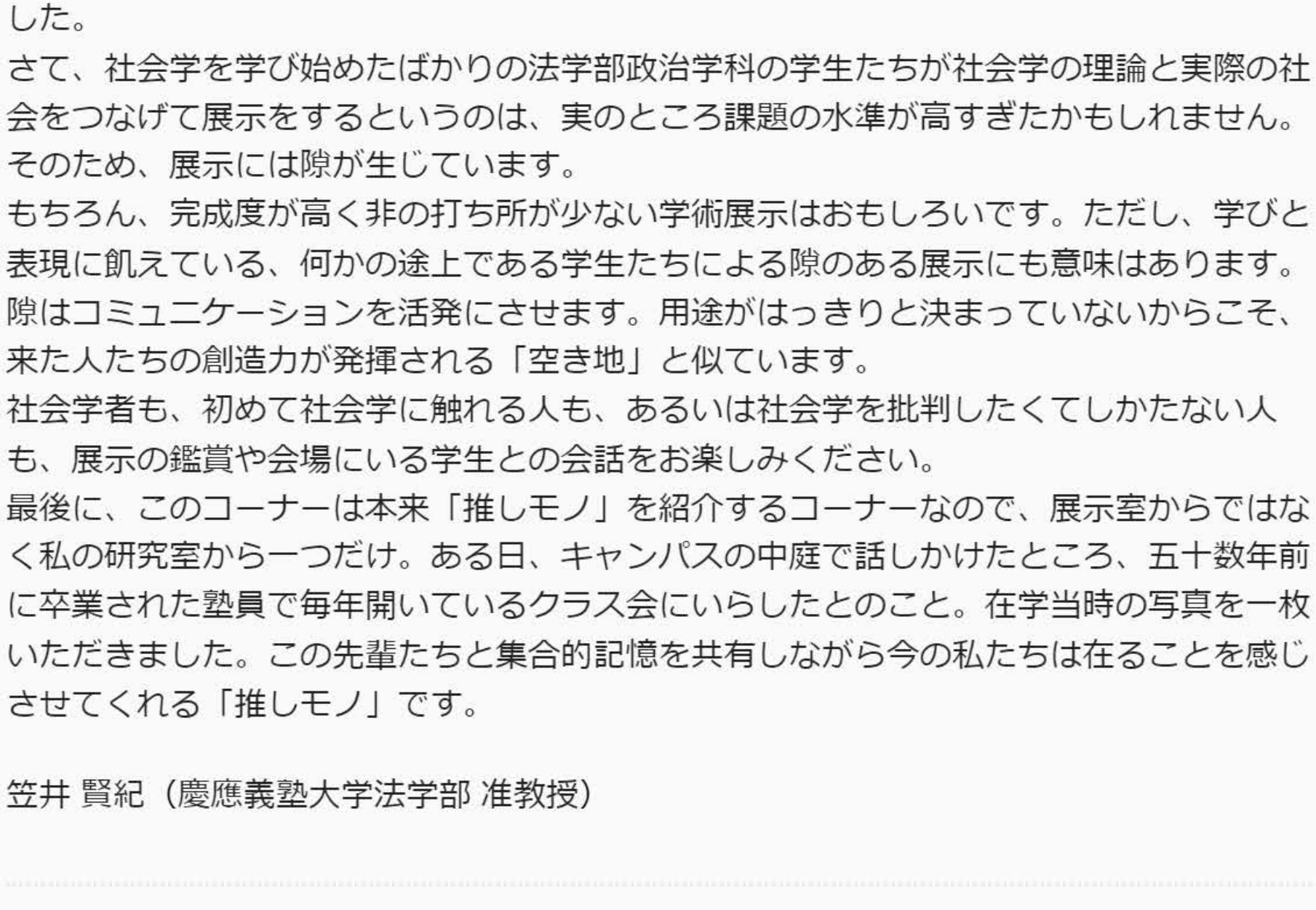
「社会学と歩こう」

社会学を学ぶ学生には、ミュージアムに縁が無いと考えている人が多いですが、場所や記憶を取り扱う領域においては、ミュージアムと近接しています。また、多様な属性を有する人びとが集まるミュージアムという場だからこそ、人々の相互行為を分析する社会学を実践できるとも言えます。本企画では社会学の理論を、キャンパスを舞台にした実際の調査に当てはめ、その成果を共有するとともに、来館者も実践の一端を体験できる、インタラクティブな展示を行います。

会期 | 12月11日（月）～12月23日（土）11:00-18:00（12月16日・17日 休館）
会場 | 慶應義塾ミュージアム・コモンズ（三田キャンパス東別館）Staircase（1F～3F）
入場 | 無料、事前予約不要
主催等 | 慶應義塾ミュージアム・コモンズ、法学部政治学科 笠井賢紀研究会（担当：本間友、笠井賢紀）
助成 | 慶應義塾大学2023年度次世代研究プロジェクト推進プログラム（タイプC）
「地域社会の総合的調査の体制確保に向けた方法論の探求」（研究代表：笠井賢紀）

KeMCo Staircase Lab.「社会学と歩こう」

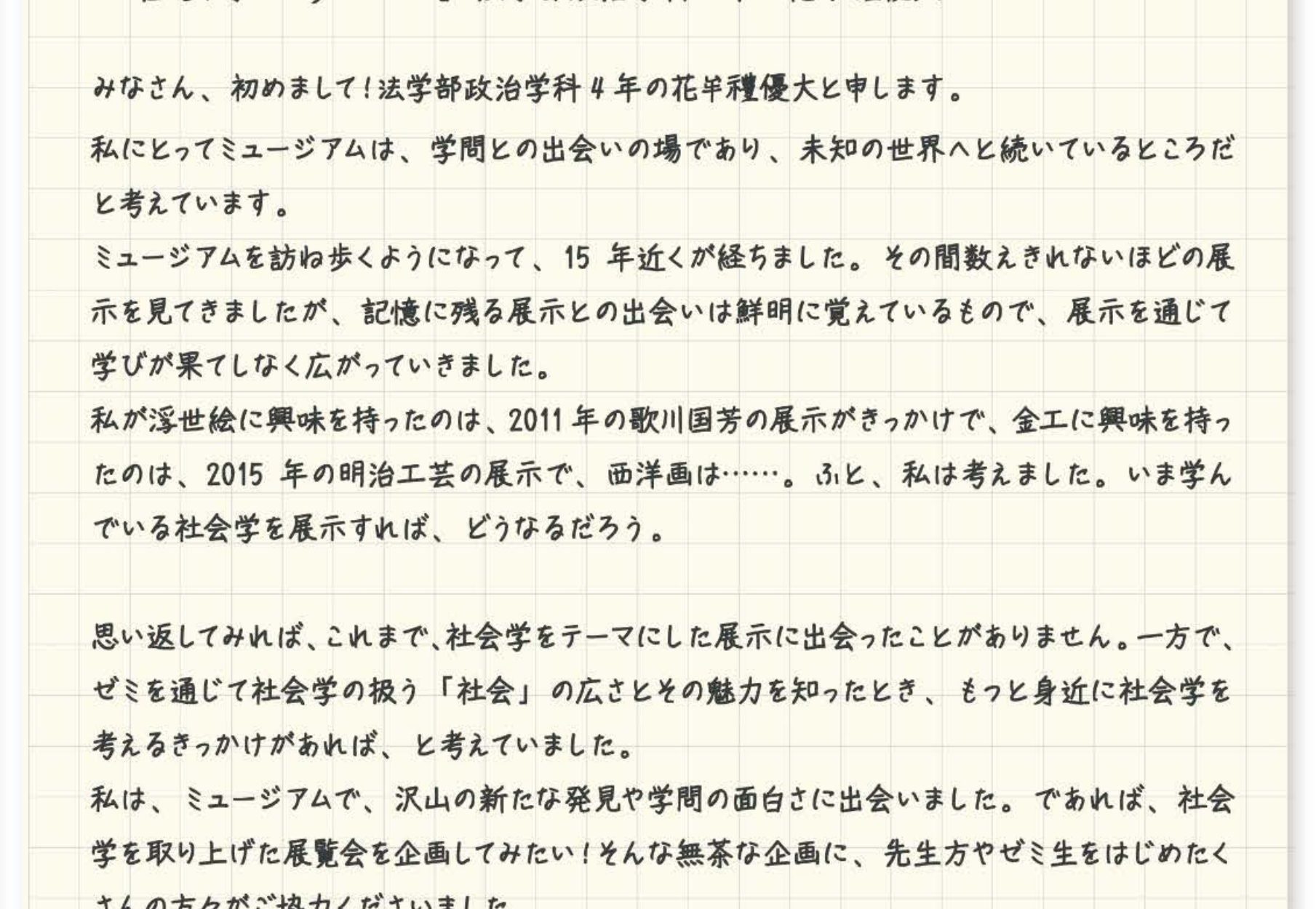
KeMCo Studi/O 撮影オープンデイ2023を開催しました



11月7、8日にKeMCoに、東別館3階 KeMCo Studi/Oにて「KeMCo Studi/O 撮影オープンデイ2023」を行いました。昨年に続いてKeMCo Studi/Oの撮影リソースをシェアする試みとして行い、9名の方にご参加いただきました。
研究者秘蔵の絵本や、お子様が描いたイラスト、大きなものではクマの毛皮の動物等をご持参いただいた（もしくはお預かりして）、貴重書や文化財の撮影を専門とするフォトグラファーが撮影を行いました。事前に撮影する資料については伝えてあるものの、実物を前にしてフォトグラファーが行う撮影のための工夫は興味深く、撮影技術を間近で見られる機会にもなりました。

本イベントは次年度も開催予定です。ニュースメールやウェブサイトでお知らせ致しますので、ぜひご参加下さい。

展示室より、推しモノ #23



12月11日からKeMCo Staircase Lab.として私の主宰する研究室で「社会学と歩こう」展が開催されます。私が関わるおよそすべての活動は、学生に衝き動かされたものばかりです。今回の展示は本号「空地」執筆の花井禮優大君が、研究室をい意味で巻き込みました。

さて、社会学を学び始めたばかりの法学部政治学科の学生たちが社会学の理論と実際の社会をつなげて展示をするというのは、美のところ課題の水準が高すぎたかもしれません。そのため、展示には隙が生じています。

もちろん、完成度が高く非の打ち所がない学術展示はおもしろいです。ただし、学びと表現に欠けている、何かの途上である学生たちによる隙のある展示にも意味はあります。隙はコミュニケーションを活性化させます。用途がはっきりと決まっていなければこそ、来た人たちの創造力が発揮される「空地」と似ています。

社会学者も、初めて社会学に触れる人も、あるいは社会学を批判したくてしかたない人も、展示の鑑賞や会場にいる学生との会話をしてみてください。

最後に、このコーナーは本来「推しモノ」を紹介するコーナーなので、展示室からではなく私の研究室から一つだけ。ある日、キャンパスの真ん中で話しかけたところ、五十数年前に卒業された塾員で毎年開いているクラス会にいらしたとのこと。在学当時の写真を一枚いただきました。この先輩たちと集会的記憶を共有しながら今の私たちがは在ることを感じさせてくれる「推しモノ」です。

笠井 賢紀（慶應義塾大学法学部 准教授）

空地

先月末、三田祭が開催されました。入場制限のない三田祭はほんとうに久しぶりで、学生や卒業生など、さまざまな人々でごった返すキャンパスの様子を見ながら（そして屋台や物色しながら）、大学の日常が戻ってきたことをあらためて実感しました。KeMCoでは、日々、人々が戻ってきたに集う「空地」らしい活動とはなにかを模索しています。キャンパスの熱気が戻ってきた今年の冬は、その活気をKeMCoにも取り込むべく、実験的な試みとして「KeMCo Staircase Lab.」という企画を立ち上げました。

KeMCo Staircase Lab.は、慶應義塾の様々な教室とコラボレーションし、ミュージアムとの関わりが少い専門領域の学生や人々とミュージアムを階段（Staircase）のように繋いでいく企画です。

第1回企画は、法学部政治学科の笠井賢紀研究会と共同した展示「社会学と歩こう」（12月11日〔月〕～12月23日〔土〕）です。企画を担当する、笠井賢紀研究会の4年生、花井禮優大（はなわ うれた）君より、意気込みを語るメッセージをお預かりしていますので、ここでちょっとご紹介します。

「社会学と歩こう」法学部政治学科4年 花井禮優大

みなさん、初めまして！法学部政治学科4年の花井禮優大と申します。

私にとってミュージアムは、学問に出会いの場であり、未知の世界へ続いているところだと考えています。

ミュージアムを訪ね歩くようになって、15年近くが経ちました。その間数えきれないほどの展示を見てきましたが、記憶に残る展示と出合いは鮮明に覚えているもので、展示を通じて学びが果てしなく広がっていました。

私が浮世絵に興味を持ったのは、2011年の歌川国芳の展示がきっかけで、金工に興味を持ったのは、2015年の明治工芸の展示で、西洋画は……。ふじ、私は考えました。いま学んでいる社会学を展示すれば、どうなるだろう。

思い返してみれば、これまで、社会学をテーマにした展示に出会ったことがありません。一方で、ぜひを通じて社会学の扱う「社会」の広さとその魅力を知ったとき、もつと身近に社会学を考えるきっかけがあれば、と考えていました。

私は、ミュージアムで、沢山の新たな発見や学問の面白さに出会いました。であれば、社会学を取り上げた展覧会を企画してみたい！そんな無茶な企画に、先生方やゼミ生をはじめたくさんの方がご協力くださいました。

私にとっていくつかの展覧会がそうであったように、本展が誰かにして記憶に残る展覧会になれば、それはたいへんありがたいことです。あらゆる関心を持つ人がききどき集まり、そこでの展示が誰かにしての思い出になる。ミュージアムがいまや以上にそのような場所になることに少しでも貢献できたなら、ミュージアム好きとして采利に尽します。

展示を通じて、社会学と私たちのかわりを体感してください！

みなさまのご来場をお待ちしております。

本間 友（KeMCo専任講師）、花井禮 優大（法学部4年）

お知らせ

三田でご覧いただける展示

2023年度秋季企画展
管轄中修建築事務所と慶應義塾Ⅱ 昭和編

10月19日（木）～12月16日（土）

会場 | 福沢諭吉記念 慶應義塾史展示館

久保田万太郎—時代を値しめ、時代に愛された文人—

11月28日（火）～12月23日（土）

主催 | 慶應義塾大学文学部、慶應義塾大学久保田万太郎記念資金

協力 | 三田メディアセンター、文学座、日本近代文学館、三田文学、大高郁子氏（イラストレーター）

会場 | 慶應義塾図書館1階展示室

Artist Voice III: 駒井哲郎 線を刻み、線に遊ぶ

10月10日（火）～2024年1月26日（金）

主催 | 慶應義塾大学アート・センター

会場 | 慶應義塾大学アート・スペース

>ご意見・ご感想は[こちら](#)

次回のKeMCo Voiceは2024年1月に配信予定です。

[過去のニュースメールはこちら](#)

Copyright © 2019-2023 慶應義塾ミュージアム・コモンズ Keio Museum Commons

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45

Tel: 03-5427-2021 Fax: 03-5427-2022

[お問い合わせ](#)

KeMCo Voiceの配信停止をご希望の方は[こちら](#)